

東洋新薬の新たな製造拠点 インテリジェンスパークが竣工

健康食品製造拠点としては国内最大級

東洋新薬の新工場「インテリジェンスパーク」が佐賀県鳥栖市に竣工した。健康食品を製造する最新鋭の生産設備に加え、高度な検査や量産化のための設備を設置。急増する需要に応えるほか、シーズ探索や研究開発の拠点となる。

健康食品、化粧品の総合受託(ODM & OEM)メーカーである東洋新薬は、佐賀県鳥栖市に新たな製造拠点となる「インテリジェンスパーク第一工場」を竣工、6月6日に竣工式を開催した。最終製品の製造拠点としては、鳥栖第1工場、鳥栖第2工場に次ぐ3番目の施設となる。延床面積は約2万2000m²で、既存の鳥栖第1/第2

工場の合計面積の約1.5倍にのぼる。土地を含めた初期投資額は100億円を超えるという。当面、健康食品の生産ラインから稼働を開始し、順次生産量を増やす。同社は、ここ3年ほどの間に急速に受託量が増え、既存の製造ラインが生産能力の限界に達しつつあったことから、新工場建設に踏み切った。

インテリジェンスパークの名称は、従業員からの応募案をもとに代表取締役社長の服部利光氏が決めた。「インテリジェンスには、知性や知能など、先端的・論理的な印象を感じます。また、親しみを持って人々が集まる場所となることを目指して『パーク』としました」(服部氏)と命名についての想いを語る。

新工場は、RC構造で高い耐震性を確保。気密性にも優れている。また、見学に対応した通路を設けており、委託元の顧客が生産ラインを確認できるように配慮している。

インテリジェンスパークの敷地内には、今後2-3棟の工場増築が可能で、将来的には空中回廊で工場間を結び、作業員が着替えや洗浄をすることなく行き来できるようにする予定だという。

今後の省力化を目指し、床を硬く、天井を高くするなど、自動搬送ロボットの導入など自動化に適した建屋としているほか、包装工程などに最新鋭の省人化設備を導入した。

さらに建屋内に、製品開発力を提供するODM企業として不可欠な商品開発部門や、有効成分量を確認する検査施設、試作や量産化のための設備なども置かれている。

物流と労働力の課題に 応える新拠点に

近年の情勢を踏まえ、新工場の稼働に向けて最も重視したのが労働力の確保と教育の充実だという。取締役生産本部長の木下敏明氏は、「新工場、新ラインの稼働は容易ではないため、既存の鳥栖第1/第2工場から、熟練した従業員を新工場に送り込みます。新工場では積極的に生産性向上や省力化に取り組んでモデルを構築し、その成果を既存工場にフィードバックしていきます」と語り、新工場を労働生産性向上を実現するための実験フィールドとしても活用する考えを示した。

新工場の社員教育は既存社員によるOJTで実施している。「OJTの成果を高めるには、作業手順書の整備や時間の確保だけでは不十分で、声のかけ方やコーチングといったスキル教育を既存社員に施しています」(木下氏)。これにより、新入社員の即戦力化と定着率の向上を実現しているという。

人材育成とともに整備を急いでいるのがサプライチェーンの整備だという。木下



取締役生産本部長
木下 敏明 氏

東洋新薬
代表取締役社長
服部
利光
氏



氏は、「インテリジェンスパークの建設に当たっては、物流を考慮した工場づくりをしています。近年、物流業界が疲弊しており、自社で倉庫を持ち、チャーター便で直送するといった対応が必要になっているためです」と述べる。

生産拠点を鳥栖市に集中させたのも、九州を南北に走る九州縦貫道と東西に走る長崎/大分自動車道という大動脈に当たる高速道が交差するインターチェンジが近く、福岡空港、博多港まで30-40分など、交通の便が極めて良いからだ。

将来的には海外にも活路を求めていく。「日本は人口減が始まり、大幅な市場縮小が目前にきています。こうした中で、中国をはじめとしたアジア圏に健康食品を提供していきたいと考えています」(服部氏)。九州の製造拠点拡大を進める理由の1つは、アジア市場へのアクセスの良さにある。

高い価値の提供を目指す

東洋新薬は今年4月、従来の「HIGH-END QUALITY」に代わる新たな使命と

して「HIGH-END VALUE」を掲げた。従来どおり、製品の高品質化を目指すのはもちろん、マーケティングから、流通、社会貢献までを含め、東洋新薬という会社そのものの価値を発信していくという。

服部氏は、「健康食品などをただ安く作るだけなら、インテリジェンスパークは不要です。大規模投資に踏み切ったのは、取引先の安心や従業員の満足とともに、知性を抛り所として、研究開発や新素材の探索を通して究極的な価値を提供する企業にしたいとの考えからです」と強調する。

健康食品の中で、青汁の市場規模は約1000億円と2位以下の素材を大きく引き離している。東洋新薬はこの青汁の供給でトップクラスのシェアを誇る。しかし服部氏は「1商品の寿命は長くて30年とされます。青汁が登場してから20年が経過しており、当社は『次の青汁』を探していかなければなりません」と気を引き締める。インテリジェンスパークはこうした新たなシーズ探索・知識・技術の拠点としても重要な位置づけになっていきそうだ。



インテリジェンスパーク第1工場の外観